

みんなの議会だより

題字：鮫川中学校

1年 なかがわさい かなと 申川西 叶翔 さん



3月定例会

令和7年度 一般会計・特別会計・公営企業会計予算及び令和6年度補正予算など可決	2~3
議案調査	4~5
一般質問に5議員登壇	7~11
ふるさと鮫川への想い	12

令和7年度予算

会計別	7年度予算額	6年度予算額	伸び率%	議決状況	
一般会計	34億9400万円	30億4500万円	14.7	賛成多数	
特別会計	国保 事業勘定	5億248万円	4億1646万円	20.7	全員賛成
	国保 直診勘定	5214万円	5604万円	△6.95	全員賛成
	介護保険	5億4048万円	5億2917万円	2.14	全員賛成
	学校給食センター	9873万円	9943万円	△0.7	全員賛成
	後期高齢者医療	4014万円	4365万円	△8.04	全員賛成
	合計	47億2800万円	41億9758万円	12.6	
公営企業会計	簡易水道事業 収益の収入	7495万円	6704万円	11.8	全員賛成
	簡易水道事業 収益の支出	9520万円	8525万円	11.7	
	簡易水道事業 資本の収入	3839万円	3839万円	0.0	
	簡易水道事業 資本の支出	3939万円	4469万円	△11.86	
	集落排水事業 収益の収入	2994万円	2690万円	11.3	全員賛成
	集落排水事業 収益の支出	3925万円	3653万円	7.4	
	集落排水事業 資本の収入	1834万円	1992万円	△7.94	
	集落排水事業 資本の支出	1834万円	1992万円	△7.94	

一般・特別会計予算

前年度比
12.6%増

3月
定例会

義務教育体制整備事業費に2億500万円



3月定例会のあらまし

3月定例会が3月7日から13日までの7日間の会期で開催されました。第1日目に、条例の一部改正等10件、令和7年度補正予算9件、令和7年度予算8件、その他1件(指定管理者の指定の提案理由の説明)がありました。次に、一般質問を行い5名の議員が登壇し、公用車等へのドライブレコーダー設置と無事故対策、行政組長会議の実施、災害に強い安心安全な村づくりなど様々な問題を取り上げ、村政を質しました。第2日目、3日目は休会。第4日目から第6日目は、総務文教常任委員会と産業

厚生常任委員会を開き、議案調査と現地調査を行いました。最終日に、審議した条例、補正予算、令和7年度予算などを含む28議案を原案どおり可決しました。また、議員発議により条例改正1件を上程し、可決しました。さらに、辺地計画の策定6件、人事案件2件が、村長より追加提出され、原案どおり可決しました。請願1件を採択し、議員発議により意見書の提出1件を日程に追加し原案どおり可決しました。

令和7年度の主な事業・事業費

歳 出		
村勢要覧作成業務委託		184万円
移住定住促進事業費	移住定住促進補助金	190万円
	移住支援金補助金	300万円
	空き家対策総合補助金	234万円
地方創生推進事業費	関係人口創出サイト拡充業務委託	209万円
	美活動刈上げ鮫(ジョーズ)業務委託	239万円
	関係人口創出コーディネーター業務委託	480万円
	村づくり懇談会事業実施支援業務委託	400万円
保育園留学システム保守業務委託		495万円
さざり荘ポンプ更新工事		204万円
高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定業務委託		495万円
村歯科診療所運営費補助金		300万円
東白衛生組合・東白斎苑運営費負担金		1億2167万円
義務教育体制整備事業費	公立学校等複合施設建築実施設計業務委託	1億3500万円
	公立学校等複合施設用地造成基金設計業務委託	1000万円
	公立学校等複合施設用地造成実施設計業務委託	6000万円
トレーニングセンター(トレーニングルーム)空調設備工事		389万円
旧富田小学校体育館人工芝整備工事		157万円



義務教育学校建設予定地の旧鮫川校跡地

**補正
予算
一般会計**

**財政調整基金等に
1億6578万円積立**

会計別補正予算状況

会計別		補正額	補正額後の予算額	議決状況	
一般会計		4208万円	39億3662万円	全員賛成	
特別会計	国保	事業勘定	192万円	5億914万円	全員賛成
		直診勘定	△17万円	6054万円	全員賛成
	村営バス事業	933万円	1978万円	全員賛成	
	介護保険	△1827万円	5億1837万円	全員賛成	
	学校給食センター	△464万円	1億199万円	全員賛成	
	後期高齢者医療	4万円	4402万円	全員賛成	
	公営企業会計	簡易水道事業	収益的収入	179万円	6927万円
収益的支出			0円	8824万円	
資本的収入			0円	3838万円	
資本的支出			△24万円	4444万円	
集落排水事業		収益的収入	20万円	2815万円	全員賛成
		収益的支出	△23万円	3639万円	



主な条例改正等

鮫川村に生息する希少野生動物植物を保護する条例

今年度実施した良好な環境創出活動推進モデル事業において、村内の希少生物（スナヤツメ・ホトケドジョウ・ギバチ・キンブナ・ゲンゴロウ）が明らかに became ことから、保護を通じて持続可能な生態系を構築し、将来へ継承保護していくことを目的に条例を制定。

全員賛成

職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

職員の給料表について、3級以上の給料月額を最低水準を引き上げる。扶養手当については、今後2年間で配偶者に係る手当を廃止。

また、寒冷地手当の支給や管理職員特別勤務手当の該当勤務時間の変更などの改正。

全員賛成

鮫川村消防団条例の一部を改正する条例

鮫川村消防団組織定数検討委員会から答申を受け、定数を230名から200名に改める。また、出勤報酬を実態に即した報酬に改める。

全員賛成

鮫川村村営バス事業特別会計条例を廃止する条例

村営バスの運行形態を業務委託（福島交通株式会社）に変更したことに伴い、特別会計として独立経理の必要性がなくなったことから、条例を廃止。

全員賛成

人事

副村長

板垣良夫（福島市）

◆任期 令和7年4月1日～令和11年3月31日

全員賛成

人権擁護委員

生田目京子（西山・辺栗）〔再任〕

◆任期 令和7年7月1日～令和10年6月30日

全員賛成

提出議案を徹底調査



令和7年度一般会計・特別会計・公営企業会計予算及び令和6年度一般会計・特別会計・公営企業会計補正予算を総務文教・産業厚生両常任委員会で調査しました。

事業内容の説明を受けた合同議案調査

総務文教 常任委員会

問 本庁舎等改修基本・実施設計業務 1774万円

答 本庁舎を部分改修するための設計費用

問 気象観測クラウドシステム導入業務 3333万円

答 気象観測システムが耐用年数を経過したための更新費用

問 公立学校等複合施設設計業務 2億500万円

答 建築実施設計業務委託・用地造成基本設計業務委託・用地造成実施設計業務委託等の費用

問 保育園留学システム保守業務 495万円

答 保育園留学で村発注の業者(株)キッチンハイクへの年間の業務委託費用

問 道路等改修工事 1億2768万円

答 西山地区(菅ノ目浅川線)・青生野地区(姿平鹿角平線・世々麦西谷地線)道路改修費用

問 地域活性化起業人事業費 1070万円

答 地域活性化起業人協定負担金。年間10日以上村に関われる民間企業2社への費用

問 特定地域づくり事業費 458万円

答 組合に加入している農家が繁忙期に人材派遣を依頼できる、マルチワーカー2人以上を確保するための費用

問 地域おこし協力隊事業費 536万円

答 地域おこし協力隊2人分の人件費。一人は林業関係を担当し、もう一人は鹿角平観光牧場のコーディネーター等に携わる



今後解体工事が予定される旧富田小講堂

現地調査

卒業祝い献立



人工芝整備工事が進められる旧富田小体育館



地場産品を活用した学校給食試食



老朽化により更新される給水ポンプ(さざり荘機械室)



農業用水路修復工事中の水口地区

第1回 臨時議会

2月20日に召集され、令和6年度一般会計補正予算及び工事請負契約の締結についての2議案が提出され、原案どおり可決しました。

会計別	補正額	補正後の予算額	議決状況
一般会計	3157万円	38億9453万円	全員賛成


主な事業・事業費

歳入	
物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金	3051万円
物価高騰対応低所得世帯緊急支援事業費	106万円
歳出	
低所得世帯支援給付費	1000万円
生活支援商品券発行業務(村民一人あたり1万円の商品券発行)	2974万円

—— 工事請負契約の締結 ——
(村道内ヶ竜滝ノ下線地すべり災害復旧工事)

- ◆ 契約方法 条件付き一般競争入札
- ◆ 契約金額 2億2431万円
- ◆ 契約の相手方 ㈱グリーンサービス福島(矢祭町)

議員5人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



P 7

ほうじょう とし お
北條 利雄 議員

- 公益通報への対応
- ドライブレコーダー設置と無事故対策
- 情報機器の取り扱い



P 10

ほんごう ひろよし
本郷 弘義 議員

- 災害に強い安全安心な村づくり



P 8

みどりかわ しげる
緑川 茂 議員

- 関係人口の創出拡大策
- 行政組長会議の実施



P 11

えんどう たかひと
遠藤 貴人 議員

- 消防団
- 暮らし応援商品券



P 9

あおと よしゆき
青戸 義之 議員

- 防災、ドクターヘリの離着陸場

一般質問は、議員の日常生活を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。



議事の進行

まえ た たけひさ
前田 武久 議長



出席議員

もり たかゆき
森 隆之 議員



出席議員

もり た しげお
森田 重男 議員



出席議員

くぼ き こういち
窪木 浩一 議員



北條 利雄 議員

問 公益通報への対応は

答 通報できる環境を整備する

質問

公益通報者保護制度は、公益のために事業者の法令違反行為を通報した事業者内部の労働者に対する解雇等の不利益な取扱いを禁止するもの。同法に基づき、公益通報窓口を設置し、公益通報の受付を行い、受理した公益通報は、通報に関する秘密を保持し、必要な調査を行い、通報対象事実があると認められる場合には法令に基づく処分や勧告などの措置を講じることになる。公益通報があつた場合、その後の手続きなどの対応は。

答弁(村長)

公益通報対応体制の整備は、現時点では規定を設けていない。村民生活の安心や安全を脅かす法令違反の発生と、被害防止を図る観点から非常に重要。公益通報者は個人情報保護法によって保護されるだけではなく、正当な声として不利益な取扱いがあつてはならない。公益通報受付窓口を設置する際には、組織内部の窓口に加えて、弁護士などの第三者機関などの外部窓口の設置が必要。通報者が安心して通報できる環境を整えるため、そのあり方について検討する。

答弁(教育長)

所管のスクールバス、幼児送迎用の車両に設置。ステッカーの添付車両はない。運行業務を委託しているスクールバスは、契約に基づき委託業者が運転免許の確認及び運行前に、体調管理等を実施、その結果の報告がある。

答弁(村長)

ラとして非常に有効。公用車を運転する職員の安全運転の意識を向上させ、事故が発生した場合の責任の明確化と処理の迅速化という副次的な効果がある。設置状況と犯罪抑止ステッカー、免許証の所持、有効期間、酒気帯びなどの体調確認など、万が一に備えての確認方法は。

質問

情報機器の取扱い

質問

情報セキュリティポリシーを周知徹底する

質問

業務で使用するパソコンや携帯電話、タブレット端末などの情報機器の貸与が増えている。貸与機器でメールの送受信やSNSを含むネットの私的な利用行為も問題視されている。

答弁(村長)

情報機器の取扱いは、情報セキュリティポリシーにおいて規定。その中で公務用の機器を私的に使用することを禁じている。違反した場合は、懲戒処分の対象となる。適切に情報機器を使用するよう、情報セキュリティポリシーの周知徹底を図る。個々の職員の情報取扱い能力、情報リテラシーの向上にも努める。職員の職務専念義務も情報機器の取扱いに限らず、服務規程の徹底を図る。

※情報セキュリティポリシーとは、組織で行う情報の安全、防護、保障対策の方針や行動指針

※情報リテラシーとは、世の中に溢れるさまざまな情報を、適切に活用できる基礎能力



閣議決定された公益通報者保護法の改正案

問 ドライブレコーダーの設置と無事故対策は

答 安全運転への意識高揚と無事故対策を講じる

安全運転への意識高揚と無事故対策を講じる

ドライブレコーダーは移動可能な防犯カメラ

ドライブレコーダーは移動可能な防犯カメラ



緑川 茂議員

問

関係人口創出の現状と拡大策は

答

若い世代の取り込みを図っていく

質問

関係人口とは、移住した定住人口でもなく観光などで一時的に訪れる交流人口でもない、地域と多様に関わる人々のことを指す、と言われている。人口減少が進む中で、地域の活性化を図っていくためには課題がある。この人口減少対策のキーワードは、関係人口の創出であり、これが将来的な地域の活性化に繋がると捉えられている。村では、関係人口創出のた



地域の行事に参加し、関係人口として貢献する東京農大生

め様々な施策を講じているが、現在の取り組み状況と今後の拡大策は。

答弁(村長)

令和5年度から地域再生計画を策定し、デジタル田園都市国家構想交付金、地方創生タイプを活用し様々な施策を実施している。その一つが今年度スタートした県内初となる保育園留学であり、これまで4組の親子が1、2週間村に滞在し子どもセンターに通所した。二つ目が関係人口創出コーデ

再質問

「さめがわむらぶ」会員が村内に来てくれることが重要であるが、実際に来村された方がどの位いるのかどうかの把握は。

答弁(村づくり推進室長)

集計は終わっていないが、数多く来村される方が半数近くおり、成果が上がっていると考えている。

再質問

村長は就任以来、交流人口と関係人口の拡大策として、湯の田周辺の景観整備をしたい、と言っているが具体的な実施計画は。

答弁(村長)

村内の企業からミニジ200本の提供があった。今年度3月内に植樹作業の公募をして実施する。村民がこぞって植えることによって、愛着が湧くものだと思う。

問 行政組長会議開催の考えは

答 新区長等で実施の可否を協議する

質問

令和元年度まで行われていた、納税表彰式と併せての組長会議は、納税組合制度が廃止になって以降開かれていない。この会議は、各組長が組長としての自覚と各担当課からの事業内

容や年間予定等の説明

によって把握することが出来、大変有意義な会議であったと思っっている。今後村では、義務教育学校の建設計画など大きな事業を進めていくが、このような施策に対する理解と協力を得るためにも、行政組長会議を開催すべきと思うがその考えは。

答弁(村長)

以前開催していた組長会議については、大変有意義であったという意見の一方で、開催する意味がないのではないかとといった意見も寄せられたことも事実である。次年度、区長の改選があることから、新たな区長等で実施の可否について協議する。また、義務教育学校の建設など大きな事業については、タウンミーティングなど村民の皆さんとの懇談の場を設け、村からの一方的な情報提供だけでなく、対話を通じて意見を伺う場を設けていく。



青戸 義之 議員

問 防災ヘリ、ドクターヘリ 離着陸場施設の整備は

答 関係機関と協議・検討をしていく

質問

現在、村には防災ヘリ・ドクターヘリの離着陸場が4か所ある。特に西野グラウンドは、進入路の路面が傷んでいて、修繕が必要である。また、他の箇所についても、義務教育学校の開校を視野に入れ、場所の選定を検討すべきと考える。今後の場所の見直し、運用等は。

答弁(村長)

地域防災計画において指定しているヘリコプターの離着陸場は、西野グラウンド、村民グラウンド、青生野グラウンド、鮫川中学校校庭の4か所である。うち、ドクターヘリの離着陸場は、西野グラウンド、村民グラウンド、青生野グラウンドの3か所、防災ヘリの離着陸場は、ヘリコプターの形状から西野グラウンドの1か所のみである。西野グラウンドの進入路については、現状では救急車を運用する棚倉消防署鮫川分署から搬送に支障はないと聞いているが、路面の状

況は季節などにより変わることもあるため、スムーズな搬送につながるよう、現状を確認しながら補修等を検討していく。また、義務教育学校の開校による、離着陸場の移設については、今後、福島県消防防災航空隊白河消防本部など、関係機関と協議をしていく。

再質問

利便性などを考慮し、よい場所を選定していく必要がある。今後、

答弁(村長)

義務教育学校の開校が進んでいき、鮫川小学校が使えるようになれば、この校庭に新たに設置するというのが考えられるのではないかと。鮫川分署とも話したことがあり、一番ベストなのは鮫川小学校校庭などが良いのではないかとという話も聞いています。今後のことも含め、場所の選定を検討していく。



防災ヘリ、ドクターヘリ離着陸場の西野グラウンド



損傷が見られる進入路(西野グラウンド)

◀ 次のページは

一般質問

本郷弘義議員・遠藤貴人議員



本郷 弘義 議員

問

小集落小地区での防災訓練計画は

答

地域住民が参加しやすい
訓練となるよう見直す



防災意識を高める落合地区での防災訓練



初期消火訓練



簡単な炊き出しごはん

定期に防災訓練を実施しているということだが、日々自宅にいる高齢者や障害者等に行き届いているか、心配なところだ。近年の災害は、忘れないうちに襲ってくる。最近ではモバイルバッテリーの発火による火災というのが社会問題

意見

ある。有事の際、いち早い対応や自力で避難することができるといっても、訓練も大切。そのためにも、小集落、小地区単位の防災訓練や、知識等の取得や、講習会などを行い、意識を高めることが必要と考えるが。

ある。有事の際、いち早い対応や自力で避難することができるといっても、訓練も大切。そのためにも、小集落、小地区単位の防災訓練や、知識等の取得や、講習会などを行い、意識を高めることが必要と考えるが。

答弁(村長)

鮫川村地域防災計画において、自主防災組織及び住民等の訓練は、住民相互の協力の下、人為的な防災活動を実施していくことが重要だ。小集落単位等で実施する訓練について、村では年に2回、火災防衛訓練時に棚倉消防署鮫川分署による初期消火訓練を実施している。今後は、初期消火訓練に加え、地震や土砂災害など、実際に起こり得る災害を想定するなど、地域住民が参加しやすい訓練内容となるよう、常備消防や村消防団と共に訓練内容の見直しを図り、村民の防災意識の徹底に努めていく。

なっている。そのような環境の中で、防災訓練の必要性や災害の基礎知識を得ることが大事である。身の回りに起こりうる災害の特徴を知ること、危険を回避できることもある。また、防災資機材などのアイテムを正しく使用し、災害発生時の初期消火に対応してほしい。手に負えなければ、避難し、貴い生命を守ることが最優先にする。さらに、地域住民や家族間で、被災時の避難場所の確認や避難経路の確認をしていくことも重要。家族でも防災をテーマにした話合いや緊急時の連絡先の確認も必要だ。小地域集落、家庭などに対して、行政で優しく丁寧に防災知識が高まる指導をしてほしい。日本一安心安全な村づくりを目指すべき。

質問

近年全国で大規模災害が多発している。本村は過去に大規模の林野火災や災害級の大雪があったが記憶から忘れ去られようとしている。地震や水害にも強く火災も少ないがゆえに、防災意識が低い。昨年3月議会での村長より「災

害の対応は常日頃から備蓄品の点検、そして訓練を繰り返すこととの回答を得た。行政主体の防災訓練、事業所ごとの防災訓練、教育機関での防災訓練等を実施していることは承知している。問題は、日頃、留守番をしている高齢者や障害者の避難で

ある。有事の際、いち早い対応や自力で避難することができるといっても、訓練も大切。そのためにも、小集落、小地区単位の防災訓練や、知識等の取得や、講習会などを行い、意識を高めることが必要と考えるが。



遠藤 貴人 議員

問 機能別消防団の在り方を、話し合う時期ではないか

答 組織の検討を進めていく

質問

村消防団組織定数検討委員会から、団員定数を30人減とすることや、役職の減員、車両削減が適正とされる答申書が提出されたが、消防団について質問する。
①どのような組織体制になるか。
②どのような車両体制になるか。
③現行の団員定数230人のうち、機能別消防団員の定数は何名か。
④機能別消防団員は、組織の中でどのような活動範囲で機能しているか。

答弁(村長)

①一般団員数を159名から148名とした。
②車両体制は、答申のとおり配備替えや廃止を行う。
③現行における機能別消防団員は、定数30名で実員は21名。
④機能別消防団員の活動範囲は、火災現場における初期消火や後方支援など。

再質問

機能別消防団員に、保険の加入はしているか。

答弁(総務課長)

非常勤職員の公務災害に適用させている。

再質問

平成31年に組織された機能別消防団も、3期目が終わる。有事の際は、水利の確保や交通整理などの活動を主として組織されたが、機能別消防団の在り方を再度、話し合う時期ではないか。

答弁(村長)

組織の検討を進めていく。

問 一時的な商品券の配布は、持続可能な政策なのか

答 困っているとき、助けるのが行政の仕事

質問

令和2年から、暮らし応援として商品券が配布されている。合計で1人当たり8万円分が配布された商品券について質問する。
①地域経済の活性化、家計負担軽減の効果をどのように感じているか。
②その根拠となるものは何か。

③この施策の評価や検証がされているか。

答弁(村長)

①地域経済の活性化、物価高騰における家計負担の軽減に大きな効果がある。
②換金された総額は2億4400万円となり、換金率も99%の実績。消費者からは、生活用品を購入する際に助かった。事業者からは、新規の顧客が利用、その後に関連客となってくれた。との声が届いている。
③消費者と事業者の声を調査し、事業が継続できるような実施していく。

再質問

商品券配布を掲げる事例は、全国的にも見受けられる。何のための対策かという目的の確認と、効果があるのかという見通しの把握が重要。2億4400万円を配布した事業の評価、検証はしているか。

答弁(村長)

商店街もシャッターが閉まってきているが、村

再質問

将来を考えたとき、一時的な商品券の配布は、村にとって持続可能な政策なのか。

答弁(村長)

村民が困っているとき、助けるのが行政の仕事。現在がなければ未来はない。

再質問

業種別の利用内訳を見ると、小売業と石油販売に8割の商品券が利用されている。石油販売は配布された7回のうち、4回が業種別でトップの利用率であるが、どのように感じるか。

答弁(村長)

購買に関しては行政の携わるところではない。消費者が選択しているもの。



社会情勢の変化で消防団の在り方が問われている

次のページは

ふるさとへの想いシリーズ(54)です

ふるさと鮫川への想い シリーズ⑤4

ふるさと鮫川村と 今をつなぐ時間

私は中学3年生まで、鮫川村で過ごしました。春には山の緑が鮮やかに輝き、夏にはトレリーディングセンターのプールで遊び、秋には赤や黄色に染まる山々を眺めながら学校へ向かい、冬には白銀の世界で雪遊びをしたことを覚えています。そんな環境の中で、



み き すみ こ
三木 澄子 さん(旧姓:緑川)
東京都八王子市在住(赤坂中野字真坂出身)

- ◆ プロフィール
 - ・昭和55年生まれ
 - ・鮫川小学校 卒業
 - ・鮫川中学校 卒業
 - ・白河旭高等学校 卒業
- ・国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療経営管理学科 (現:医療福祉・マネジメント学科) 卒業
- ・診療情報管理士として、神奈川県某病院に勤務

小中学生時代は陸上、水泳、合唱、バレーボール、ソフトボールと、さまざまなことに挑戦しました。どの活動も仲間と共に励まし合い、笑顔と涙で溢れた大切な思い出です。

以前久しぶりに帰省した際、子供たちを連れて私の母校である小中学校を巡りました。懐かしい校舎や校庭を見ながら、子供たちは「ママはここで勉強していたんだね」「中学校の

坂はすごいね」と驚いたり興味を持って聞いていました。確かにあの坂は、当時の私たちにとっても「試験の坂」でした。朝の通学時に友達と励まし合いながら上り、帰りには「もう歩けない!」と笑いながら下ったあの坂が、今も変わらずそこにありました。そんな子供たちの言葉を聞きながら、私自身も校舎で過ごした日々を思い出し、懐かしさで胸がいっぱいになりました。

帰省する度に、昔の同級生たちと集まり、食事をしながら近況を報告し合うのが恒例となっています。久しぶりに顔を合わせても、不思議なことに話し始めた途端、学生時代の感覚に一瞬で戻ります。「あの頃はこんなことがあったよね!」と盛り上がり、お互いの今の生活について語り合ったり。夢に向かって努力している友人、妻として母として奮闘している友人、それぞれの人生を歩んでいる姿に刺激をもらい、「私ももっと頑張ろう」と思える貴重な時間です。

現在は、八王子に住んでいます。ここにも豊かな自然があります。朝、窓を



開けると小鳥のさえずりが聞こえ、散歩をしているとどこか鮫川村を思い出させる景色に出会うことがあります。ふとした瞬間に、あの頃の空気感や思い出がよみがえり、懐かしさを感じます。

また、子供たちの学校行事やイベントに参加する度に、自分が小中学生だった頃との違いを実感します。授業のスタイルやテクノロジーの活用、学校のルールなど、時代は確実に進化しています。しかし、運動会や受験対策など、自分が経験したことが今の子供たちにも役立つ場面も多くあります。

そんな時、自分が鮫川村

で学び、経験したことを子供たちに伝え、アドバイスできることがあるのは、とてもありがたいことだと感じます。故郷での経験は、今の私を作る大きな土台になっています。

鮫川村で過ごした日々があるからこそ、今の私がいる。そしてこれからも、その思い出を大切にしながら、家族と共に新しい日々を歩んでいきたいと思っています。



編集後記

春の日差しが心地よい季節となりました。我々議員も任期の間、間点となり、気持ちも新たに「住みよい村づくり」のため誠心誠意取り組んで参ります。今後とも、ご指導とご協力をお願い致します。

(広報編集委員)